

降雪時の安全について考えよう！



1月は寒波によって集中して雪が降り積もり、高速道路では車の立ち往生が起きました。また、一般道も雪で通学路がふさがれ、学校は臨時休校になりました。皆さんは休校中、雪かきのお手伝いをしましたか。

さて、2月に入り、暦の上では春となりますが、まだまだ雪への心配があります。降雪時は普段通りにいかないことや、危険なことがいくつもあります。そこで、降雪時に注意することにはどんなことがあるか考えてみましょう。

- ・道路や路面が滑りやすいため、けがをしやすい

- ・屋根の落雪による事故が起きやすい

雪の重さは1立方メートル当たりで大体新雪で150kg以上、根雪となって固まっていった場合は500kg以上にもなる場合があります

- ・降雪時は道路の見通しが悪くなり事故に巻き込まれやすい

- ・除雪でかき集められた雪のかたまりなどで視界が悪くなる

- ・除雪が間に合わず道路が通行できない、電車やバスが運休する



火傷に気をつけよう

昨年から火傷で保健室を来室する人がいます。火傷をした後の処置を尋ねると、「冷やしていません」または、「水で1～2分冷やしました」と答える人がいます。火傷の応急手当の基本は、「すぐ」「十分に」冷やすことです。通常の場合、痛みが軽くなるまでを目安に冷やしましょう。（時々水から出して、痛みを感じたらまた冷やすようにします）また、細菌に感染する恐れがあるので、水疱をつぶすことはやめて、清潔なガーゼで覆うようにしましょう。

使い捨てカイロや電気カーペットによる低温火傷にも注意が必要です。痛みがあまりなくても、皮膚の中まで損傷していることもあります。心配ならば病院で診てもらいましょう。

こんなとき、こんなところで火傷をする危険があります



給食のスープがかかる



ストーブにさわる



カイロでの低温火傷



実験中の火傷

皮膚はかさついていませんか？



皮膚が乾燥し、皮脂の分泌が少ないと、肌がかさついて荒れてきます。保健室に来る生徒の中には、指先の皮膚が割れて血が出ている人がいます。あなたの皮膚は大丈夫ですか。

ここでクイズを出題します。○か×で答えましょう。

1問 きれいに洗うためにゴシゴシと力を入れて洗う

皮膚を強くすると皮膚の表面が削り落とされてしまいます。やさしく洗い、すすぎ残しのないようにしましょう。

答え：×

2問 手のひらは皮が厚いので、クリームをつけなくてよい

皮膚の表面は、体の中から出る脂肪の膜で守られています。石けんで洗った後は、その脂肪の膜がなくなってしまいます。手のひらは脂肪の膜が少ない場所なので、こまめにクリームを塗りましょう。

答え：×